第１回　下田市立小学校在り方検討会議【議事録】

日　　時	令和７年２月 18 日(火)午後 15 時 00 分から午後 16 時 30 分
場　　所	下田中学 メディア棟２階
出席委員	21 名（うち武井委員はウェブ参加）
内　　容	１　開会 ２　挨拶 ３　趣旨説明 ４　事務局説明 ５　意見交換（現状、グループワーク、共有） ６　武井教授より ７　挨拶 ８　事務連絡 ９　閉会

開会　学校教育課長

ただ今から第１回下田市立小学校在り方検討会議を始めさせていただきます。
まず最初に、下田市教育委員会教育長からご挨拶いただきます。

１．教育長挨拶　山田教育長

本日は大変貴重なお時間をいただきましてありがとうございます。会に先立ちまして、皆様方に私から一言ご挨拶申し上げます。新しい下田中学校がスタートして早いもので３年になります。７校の小さな小学校が集結し、それまでの小学校にはない学校での活動や学びを子どもたちは体験しています。コミュニティスクールも中学校で令和５年、小学校で今年度の令和６年に設置にいたり、小中学校共に地域とともに歩む学校という形ができつつあるように感じておりますが、３年経って皆さんはどう受け止めていらっしゃるでしょうか。

近年、少子化が加速度的に進み、学校の再編に舵取りをしながらも紆余曲折する自治体は少なくありません。複数校を一つに、又は二つに統合するところもあれば、逆に豊かな教育環境を求めて移住者の増加が進むという現象を生み、教室を増築したり、マンモス校を複数の小規模校に編制する自治体もあるようです。学校を地域から消したくないと、デジタル技術やリモート技術を駆使しながら他との交流活動を推進し、魅力化を進め、存続しようとする自治体も多く見受けられます。下田市も例外ではなく、魅力的な学校のあり方について高等学校も含め、賀茂地域の一自治体としてこうした話題は避けられない状況ではないかと受け止めているところです。

今回第１回目としてご参集いただきましたが、この会は決して学校の再編ありきという会合ではないことをご了承ください。ここにいらっしゃる方に限らず、中には「学校は地域からなくしたくない」とか、「学校選択できれば」「統合は早急にするべきではないか」などと、そのような思いもあることは予想されますが、教育委員会としてはそれも十分承知しております。激しい少子化問題と共に、多くの自治体が議論し、知恵を出し合って模索しているように、下田市もこの７小学校のあり方について、魅力を語り、課題を解決するための意見交換の場としたいと思っております。その中で統合をというお考えもあればそれはそれで受け止めるとともに、議論していただきたいと思います。

とにかく、子どもたちのために、どんな学校にしたいか、どんな学校でありたいか、あるべきなのか、それぞれの思いを出し合って語って欲しいと思っています。第１回目のこの会で出された皆さんの自由

な発想や願いを、第３回以降の会においての魅力的な小学校を語りあうヒントや材料としたいと考えております。

今回ご参加いただいた皆さんは、一部の校長や区長様以外は年度が替わると交代し、参加者はほぼ一新します。第２回目は５月か６月になる予定ですが、新しい皆さまには今回のような事務局から学校の現状等の説明が必要となりますので、第１回目のこの会と重複する内容がでてきますが、倍のご意見、材料を集められると思い、今回この時期に１回目を設定させていただいた次第です。市長、副市長はじめ、課長級幹部にも、この会の開催については承知しています。

この後、事務局から趣旨説明、小学校の状況等について説明がありますが、それらを踏まえ忌憚のない会にしていただければと思っております。

なお、この会には小中学校長、各校ＰＴＡ会長様、小学校区代表区長様にご参加いただいておりますが、学識経験者として静岡大学教職大学院教授の武井敦史先生にリモートで参加いただいております。中学校統合当初から下田市には深く関わりご助言をいただいております。全国の学校再編について幅広い見識とご指導の実績をお持ちで、このたびも下田市にとりましては心強い助言者、サポーターとして関わってくださいます。会の終わりにお話をいただく予定です。武井先生、よろしくお願いいたします。

それでは皆さま、今日はどうぞよろしくお願いいたします。

学校教育課長

続きまして、学校教育課より今回の趣旨についてご説明申し上げます。

学校教育課　参事

それでは本会議の趣旨説明をさせていただきます。

平成２７年３月２６日、下田市立学校等再編整備審議会より、６回に渡る慎重な審議を重ね、下田市立小・中学校の再編整備について答申が出されました。小学校については、再編の指針として、「７小学校体制を維持する。今後１校でも複式学級が生じた場合は校区を検討し再編を検討すべきである」となっておりました。ここで『複式学級』について簡単に説明させていただきます。お手元の資料３ページをご覧ください。平成２７年度の見通しでは、１０年間はどの学校においても複式学級は生じない見通しとなっていましたが、１０年が経とうとしている現在、稲梓小と大賀茂小で複式学級となっております。これまでの状況を確認したところ、平成２９年度より複式学級となる人数が１学級、下田市で初めて大賀茂小学校が複式学級の対象となりました。しかし、県の複式解消加配のおかげで実質複式学級とはなりませんでした。しかし、平成３０年度には、実質下田市初めての複式学級となりましたが、市の会計年度職員として複式解消教諭を配置し、ほとんどの授業を学年別に実施しました。以降、令和元年度からこれまで、大賀茂小、稲梓小で複式学級となり、県の複式解消加配がつかない場合は、市の会計年度職員を複式解消教諭として配置し、少人数の良さを十分発揮し、一人ひとりを大事にした学習展開をしてきました。市の複式解消教諭を配置するという対策を講じることで、稲梓小、大賀茂小とも少人数指導の良さを生かし、小さな規模でも学校の特色を生かして、学校が地域の文化の中心として存在し、地域とのつながりの中で学習に成果を上げていることができていると思います。今後５年間で２００名程の児童数の減少が見込まれ、今後は白浜小、浜崎小も複式学級となる想定です。教育委員会としましては、今後複式学級が新たに生じた場合も、県の複式解消加配が配置されない場合に、市の複式解消教諭を配置するという同様の対応を考えております。下田市の小学校で魅力的な教育活動ができるよう、地域の核となって活躍されている区長の皆様をはじめ、PTA 会長の皆様、校長先生方といった子供に関わる様々な立場の皆様から率直な意見をいただくための会議として、本会議を設置させていただきました。今、地域であたたかく見守られている小学生とこれからランドセルを背負って小学生になる幼児たち、

そして保護者の皆様の思いを大切にご検討いただけますと幸いです。
　どうぞよろしくお願いいたします。

学校教育係長

　私からは設置要綱と今後の開催計画のイメージを説明させていただきます。まず、設置要綱の第１条、本会議は、小学校のあり方にかかる課題についての意見を聴取する会議ということです。議決が発生するような決定権がある会議ではございませんが、私ども教育委員会が方針を決定する際に拠り所となる地域の皆様のご意見をご提案いただければと考えております。続きまして、第２条、本日お集まりいただきました皆様についてです。先ほど説明がありました、各小中学校の校長先生、各小中学校のPTA会長様、並びに各小学校区の代表区長様、そして学識経験者として静岡大学教授にご参加いただいております。また、この２条第２項に、会長は教育長、副会長は、会長が指名する。というところでございますので、副会長について、下田小学校校長の土屋真由美先生に副会長をお願いしたいと思っております。よろしくお願いします。続きまして、第３条の委員の皆様の任期はそれぞれの職等にある期間とし、年度変わり等で変更があると思いますが、そのあとも委員を引き継いでもらう形になるかと思いますので、引継ぎの際には小学校のあり方検討会議の件についてもお願いしたいと思います。続きまして、第４条、会長は会務を総理し、検討会議を代表する。副会長は、会を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理することとなっております。続きまして、第５条、会議についてです。ここに記載のあるとおり、本来、会長が議長を務めるものですが、今回第１回目ということで、初回については特に議事がございませんので、学校教育課長より出させていただいておりますのでご了承ください。続きまして、５条の３項で、委員の皆様について、会議に出席できない場合については、代理の方も出席を認めております。第６条については、今後のスケジュールと合わせてご説明させていただければと思います。今回、第１回の会議を開催させていただきました。今後、年度が変わって改めて委員になられた方に対して２回目の会議で、本日と同じように趣旨説明や現状等説明させていただきます。この後、グループワークで皆様にご意見を頂戴しますが、その中から出てきた疑問、他の市町ではどうなのか、今学校ではどんな授業をやってるんだろうという疑問が出てきた際に、この部会というものを設置させていただく予定でございます。第６条において規定している部会を設置して、事前収集、研究等を行い、改めてこの会議でご報告させていただければと考えております。部会員については、規約にもあるとおり、関係のある委員様、教職員、学識経験者等の中から会長が指名するとありますので、その際にはご協力いただければと思います。以降の部分については、個人情報の取り扱いや事務局は学校教育課が行う等の内容となっております。そちらはお読みいただければと思います。開催計画についてですが、皆様から出てきた意見等、先進事例を知りたい場合、部会で調査し、その会議で報告させていただきます。１番最後の５回目は提言となってますが、こちらは当会議において、皆様と下田市の現状と未来を考えた上で、我々教育委員会が方針を出す際に参考となるご意見を頂戴できればと考えております。提言の例としては、こんな子供を育てるためにこんな授業をやってもらいたい。などのご提言をいただければ幸いと考えております。

学校教育課長

　ここまでの説明で確認したいことはありますか。
　この後、意見交換に入りますので、確認した意見なども含めてご意見を伺えればと思います。よろしくお願いします。それでは意見交換に入りたいと思いますが、初めに現状説明なども含めて、指導主事お願いします。

指導主事

私からは、下田市の現状をお伝えしたいと思います。令和6年度8月現在の下田市の児童数を表したものになります。現在2月ですが、この時期は転出入が増える時期ですので、実際の今の数とは微増減がございますので、ご容赦いただければと思います。下田市においては、下田小学校の5年生のみ赤字になってるかと思いますが、その5年生のみが35人を超えますので2クラスでの運営を現在しているところです。それ以外の学校は全てが1クラス、いわゆる単学級という状況になっております。また、こちらも何度か説明に出てきましたが、複式学級については、法規上は1学年で16人以下の学級は複式学級を組むようになっていますので、現在塗りつぶされている稲梓小の3、4年生と5、6年生、大賀茂小の2、3年生と5、6年生は複式学級という風になっております。しかし、静岡県においては16人、15人の複式学級、来年度は14人に引き下げという説明が先ほどもございましたが、複式の対象となりますので、県においても、下田市においても、市費の支援や加配教員を任用して、単式学級として行えるような取組を整えているところでございます。次に、そのA表の黄色く塗りつぶされているところをご覧ください。こちらは令和6年度現在の就学前の乳幼児数となります。今年度の6年生の合計が110名強在籍しているのに対して、昨年度出生したお子さん達ですけれども、そのお子さんたちは令和12年度の入学予定数になっていますが、その予定児童数は66名となっております。その数を把握していただきながら、隣のB表をご覧ください。A表を基に今後の児童数を推測した数になっております。全校児童が40名以下のところを赤字にしてございますが、同時にC表を見ていただくと、全校児童が40名台に入ってくると、ほぼ確実に複式学級が発生する状況であることが分かります。5クラスと書かれているのは複式が1つ発生している、4クラスというのは複式が2つ発生している状況になります。B表とC表はあくまでも現在の児童数から割り出した推計にはなりますが、令和6年度現在、市内で630人ほどいる児童が、6年後には400人台にまで減る予測となっております。ここまで、下田市における児童数の現状と今後の推移を説明させていただきました。ここまでのところで何かご質問等ございますでしょうか。それでは、ここからはグループワークとなります。話し合いの方法は特に指定はしませんので、必要に応じて司会を決めてください。話し合いはに2本の柱を作らせていただきました。学校をより魅力化するためのご意見が1点。それから2本目の柱として課題だとか心配になるようなこと。この2つの柱を設定させていただきましたので、この2つの柱について忌憚のないご意見をいただければと思います。

グループワーク

共有

Aグループ

Aグループは、課題や魅力という話をするのではなくて、1番最初に主役は誰だということから始まりました。子供が主役であり、地域の中心は学校であるんですけど、子供たちは一体どう思っているのかっていうことが大事なのではないかっていう話から始まりました。学校がなくなると伝統がなくなるなんていう話がありますが実際小学校の子供たちに聞いてみると、統合して友達がいっぱいで嬉しいという声が聞こえます。そういうところから考えていった方がいいかっていう話がありました。中学は人数が増えることで選択肢が広がります。そして、人数が増えることで自分の居場所を見つける子もいますが、馴染めない子もいるということがありました。そういうことから、一体何を視点にあてて考えていくのかということが1番大事なのではないかという話になりました。その中で、今の子供たちにつけたい力として、関わり合いを大切にしたいという視点から考えると、少人数で目は届くのだけれども、やりたいものが狭められるのではない。人との関わり合いが少なくなることをデメリットにしないために、縦割り活動を増やしたり、学校間の交流を増やしたり、学年間の関わりを増やしたりというような、そ

んな工夫を今は行っています。それから、発達段階を考えたりすると、1つに行動してしまうってことについてどういう風になるのか。安全面で考えるとどうなのか。広い下田市の中で、特に小学校がまとまってしまうことがどうなるかということもありました。エリアごとということも考えられるなというところであります。以上です。ありがとうございました。

Bグループ

Bグループは色々話をする中で、率直な思いで、今の学校をなくしたくないよなっていうのは、まず声があります。そう思うのはななぜか話をしました、まずは、地元に密着しているよなっていうことで、地域との繋がりが挙げられます。それから2つ目は、上級生と下級生の繋がりが濃くなるっていうところで、学年を超えた繋がりっていうのがございました。3つ目としては、豊富な教育資源がたくさん近くにあるので、豊富な体験活動や地域に密着した体験活動ができる。それは子供の時にやったことは忘れないので、そういったものがその学校に蓄積されるのがいいんだろうなと思います。それと目が行き届くというところについても良さとしてあげられます。ですが、同時にやっぱり課題もあるなっていうのは感じたところです。例えば、昔、白浜小でも1学年60人もいたっていうこともありましたけど、その頃は近くにいろんな資源もあって、地域の人も近くで見守ってくれているという中で、かつ友達もたくさん、実は小さい学校と言ってもいたわけですけど、それがさっきの数を見ればわかる通り、極端に少なくなっていきます。そうなると、上下の学年の繋がりなんかは上手くやることができるかもしれないけれど、同じ学年の仲間での繋がりっていうのは、どうしても少なくなっちゃうんじゃないか。やはり同じ学年の友達との関わりとか、いろんな子がいるんだなっていうことを学んでいくだとか、その中で対人関係を学んだとか、中には苦しくなったなっていう子がその中でも自分らしくいられるとか、そういったところは今の学校の課題でもあるし、もしかすると規模がもう少し大きくなれば解決されていくことかもしれないなっていう話になりました。先ほどお話した通り、小規模校は、人間関係が崩れちゃって厳しいという問題があったり、実は保護者なんかも狭くなると難しいところもあるんじゃないかなっていう声も聞かれました。もし統合するとどうなっていくかなって話も出てきました。統合されるとちょっと顔見知りが少なくなっちゃうんじゃないかなとか、それから地域との関係がのかなっていう意見も出ましたけれども、こんな考えもありました。統合するとそれぞれの学校の文化がなくなってしまうんじゃないかなっていう心配もあるけれども、実はその文化ってそう簡単にはなくならなくて、それを上手にやっていけばそれぞれの地域で持っている文化を生かしていくことができるんじゃないかなっていう意見も出されています。なかなか結論っていうのは出ないですが、昔の状態だったらできたことが今なかなかそのままではできないっていうことを考えると、どういうふうに進んでいくにしても、何か子供たちが、それぞれが居場所があって、自立して、それから繋がりだとか体験なんかをたくさんしながら、こういった場合に学んでいくような教育環境、ちょっと工夫したり考えたりしていかなければならないんじゃないかなという話になりました。以上です。

Cグループ

Cグループは下小、大賀茂小、朝日小の旧下田中学校区の皆様と話をしました。魅力や課題もあるのですが、ざっくばらんにいろいろなご意見をそれぞれの立場で出す中で話が広がっていきました。まず、それぞれの地域の中で子供たちが育っていくっていうのが今の小学校の魅力で、地域性をそれぞれ発揮されているところがとてもいいんじゃないか。例えば、下小だと黒船祭があり、国際的にいろんな事に触れるような機会もあります。ただ、課題として子供の数が激減しています。、例えば地域の良さの下田の祭であっても、学区の子どもたちだけでは成り立たなくて、今は全小学校に呼びかけを行って実施しているような現状です、大賀茂はとても地域性が強く、地域との繋がりが強いので、運動会でやる大賀

茂音頭は小学生だけではなく、中学生も高校生も地域の方みんなで踊れるようなそんな良さがあります。そのような地域の良さがそれぞれあるのではないかという話が出ています。ただ、子供の数の表を資料でいただきましたが、これがいいんだってことは考えられないなという話がありました。複式が良くないってことでもないし、複式がいいっていうことでもない。正解はないのかなというような話でした。例えば、今、不登校の子供が増えてますが、不登校の子供たちが通うような施設の中では、学校の外でも、少ない人数の中で生き生きしてる姿を見たことがあるという意見があり、その子供たちが生き生き生活するためには、大きいところでも小さいところでも、子供たちに合うような、いろんな条件が考えられるんじゃないかという意見があります。区長さんたちは、ご自分の育った経験の中から色々意見を言っていただいて、田牛区は、すごく仲間意識が強い。子供の時から、歳が１つ、２つ違っても、ずっと結びつきが強く、それがずっと大人になっても続いてくような良さがある。小学校から中学校へ育っていく中で、そういう良さもあるが、今の中学校が統合した様子を見ていると、それぞれの地域の小学校の良さがあるが、子供たちが育っていく中で、将来社会に出て活躍することを考えると、だんだんとその発達段階で身につけるべき力を考えた時には、大きい集団で揉まれてやっていくのもいいんじゃないかという意見もありました。そんな話をする中で、幼稚園の再編の話があった時に、地域に残した方が良いなどの意見もありましたが、今となってみると、そのコミュニティが多様になり、価値観が広がって、すごく満足度が高いというご意見もいただいき、再編するとそういう良さも出てくるのかなという意見がありました。この話し合いをしていく中で、適度な人数とはどのぐらいだろうという意見も出てきました。どれが良いっていうことではないですが、再編をするとしても、どんなことを大事に考えて、どんな段階を踏んでいくのか、今の時点では少し未知数ですが、今の段階でのそれぞれの魅力とそれから課題、地域の現状も踏まえて、ざっくばらんに意見があがりました。以上です。

静岡大学教授　武井　敦史　氏

よろしくお願いします。

私の経験からお話させていただければと思います。まず結論から言うと、二分法の思考からの脱却です。学校を統合するか存続するかを二者択一で考えるのではないということです。学校再編にマニュアルはなく、児童数が減少していくという現実は変えられないし受け止めなければなりません。その中でどのような学校の在り方が可能か、新しいカタチの可能性は大いにあります。

子どもが減っていけば１学級当たりの人数が減ります。複式学級では２つの学級を一人で教えなければなりません。しかし、今やＡＩドリルなどを活用すれば小規模でも問題ありません。逆に、小規模であればあるほど、児童生徒数に対する教員の配置数は多いという側面があります。ただ、考えておかなければいけないことは、子どもは集団の中で育つダイバーシティの問題です。子どもの成長環境という側面から考えると多様な子供がいた方が良い。少人数で指導できることは子どもには手厚い指導ができるという点では良いが、人間関係の固定化やコミュニケーションという点からすると、子供が一定数より少なくなると発達にとって懸念が生まれます。それを両立するにはいろんな可能性はあるだろうと思います。地域にとっては、地域に学校があることは重要。地域社会の核として学校があったということは紛れもない事実です。しかし、人口が減ると、自治体を支える人間の数も減ります。その視点からすると、学校が地域社会の核として残っていることは喜ばしいことですが、今後も同じように自治体が学校を維持していけるかと言えば、それが厳しいことは受け入れなければいけないだろうと思います。地域社会にとって望ましいことは何か、学校にとって望ましいことは何かを、残すか統合するかという二者択一で考えることはやめましょう。内田洋行のショールームに行けば、壁一面のスクリーンに等身大の投影が可能で、リアルな存在としていなくても同じ空間にいるかのような状況を作り出しての授業ができます。そうすれば、学校を小規模のまま残し、教員の数は確保しつつ、手厚い指導をしながら、Ｉ

ＣＴ機器を活用して授業も可能です。離れていたらコミュニケーションが取れないという時代ではないので注意すべきは、昔と同じ形で残すことが正義だというように考えてしまうと、前向きな議論ができなくなります。子供が減っていくので心配だという保護者の声と、学校を統合されたら地域が疲弊するという声と、どっちは勝ってどっちかが負けるという争いにして下田市にとって一つもいいことはありません。したがって、これから考えなければいけないことは、状況を分析的に見て、状況がどのように変わってくるのかということは踏まえておかなければいけないということです。子供の数は今よりも減っていくことは覆すことはできない。一方で、地域社会の維持と、子どもの教育にきちんと責任を持てる状況を作らなければいけない。その２つをつなげていくためにはどうしたらよいか。そのためには自治会などの地域組織の在り方も変えていかなければなりません。そこで、学校単位で物事を進めていくよりも学校群として考えていくほうが良い。グループで進めたほうがうまくいくこともあり、二者択一ではない方法で考えていくべきだろうと思います。そう考えていくと、小規模地域の未来は明るいのではないかと思います。第１回目の会議は、問題をはっきりさせることが目標で、事実として受け入れなければいけない問題と、工夫次第で何とかなるものとを整理して分けておく必要があります。二者択一の問題になってはいけないということが私からのヒントです。次回以降も楽しみにしています。

教育長

簡単ではありますが、一言お礼を含めてご挨拶したいと思います。

今日は本当にありがとうございました。先ほど、A グループがうちのグループはまず主役は子供なんだと、学校だというお話をしてくださいましたが、実は私も転々と聞かせていただいた中で、この会を開くときに、どんな会になるのかなと思っておりました。せっかく皆さんにお集まりいただいたので、気持ちよく帰っていただければなと、今後に繋がる会になればなという風に少しドキドキしていましたが、どこの班のグループも子供の姿でお話をしてくださってたので、やっぱりこれが基本だなということを思いました。校舎はどうするとか、通学はどうなるなどの話では一切なく、子供の姿で語っていただいたということが原点だと思います。そのような会がこれから続けられるという見通しがあり、非常にありがたいなと思いました。武井先生は、今日はリモートでしたが、おそらく 2 回目、3 回目、この回が続くと、内容が少しずつ変わってきます。当然、話し合いとか討論ですとか、意見交換の内容が変わってきますので、それに応じた武井先生の助言をいただきながら、進めていければと思っています。今回の出された意見等についてはこちらで整理をして、課題となるものや、押し進められること、先ほど武井先生が言ってくださったことを整理して、2 回目の新たなメンバーの方々に確実に伝えながら、新たにまた第 2 歩目を進めていきたいという風に思います。1 番最初スタートの会としては、本当に和やかに皆さん参加してくださったので、感謝申し上げたいと思います。今後ともご支援、ご協力の方、よろしくお願いしたいと思います。本日はお忙しいところ、ありがとうございました

学校教育課長

第 2 回目を 5 月に予定をしておりますので、PTA 会長様が交代される場合には引き継ぎをよろしくお願いいたします。それでは、第１回下田市立小学校在り方検討会議を終了させていただきます。本日は誠にありがとうございました。